関係性の違いによる異性の対人魅力

川　名　好　裕*1

Interpersonal Attraction as a Function of the Differences of Relationships between Males and Females

KAWANA Yoshihiro

Abstract

Fifty-four males and 128 females at the age of around twenty years' old were asked about the importance of 47 items in three kinds of man-woman relationships. They are the sexual relationship, the romantic love relationship and the marital relationship. Factor analysis extracted 3 different kind of attraction, which are the mental attraction, the practical attraction and the hedonic attraction. The mental attraction is more valued in the romantic love relationship and the marital relationship. The practical attraction is valued gradually in romantic love relationship through the marital relationship. The women value the practical attraction most in the marital relationship. The hedonic attraction is valued most in the sexual relationship.

序　論

身近な他者と円滑で安定した対人関係を構築したいという願望は、世代や文化を超えた人類普遍の社会的欲求であろう。特に、異性を対象とした対人関係（以後、異性関係）を良好に営む為の知識と技術の修得は、青年期における最大の関心事の一つとなっている（松井・戸田，1984)。加えてこの問題は、晩婚化や未婚率・離婚率の増加（厚生労働省，2009，人口動態調査）といった現代の社会的関心事とも密接に関係しており（谷口，2010)、心理学による一層の社会的貢献が期待されるテーマとなっている。

異性関係に関するこれまでの社会心理学的研究では、長年に渡り多様なアプローチが用いられてきた。例えば、異性関係の進展を促す環境変数を同定しようとするものや（e. g., Driscoll, Davis, & Lipetz, 1972; Dutton & Aron, 1974; Griffitt, 1970; Walster, Walster, Piliavin, & Schmidt, 1973)、異性関係の多様な関係性を分類し、それぞれの特徴を見出そうとするもの（e. g., Hendrick & Hendrick, 1986; 金政・谷口・石盛，2001; Lee, 1977, 1988; Rubin, 1970)、時間経過に伴う異性関係の変化を記述しようとするもの（e. g., Bailey & Kelley, 1984; 松井，1990; 飛田1989，1991)、性格などの個人特性と異性関係の特徴の関係を検討しているもの（e. g., Rubin，1970）などが代表例として挙げられる。これらの中でも、最も多くの研究者の注目を集めてきたのは、異性関係の進展の可能性において重要になる対人魅力を特定しようとする試みであろう（e. g., Anderson，1968; 渕上・楠見，1987; 松井・江崎・山本，1983; Seyfried & Hendrick, 1973; 詫間，1973; Walster, Aronson, Abrahams, & Rottmann, 1966; Walster, Walster, Piliavin, & Schmidt, 1971)。

異性関係において重要となる対人魅力の同定を目的とした先行研究は、その手法に基づき、大きく２種類に分類することができる。第一の分類は、特定の対人魅力（例えば、容姿などの外見的魅力）が異性の印象評定に及ぼす影響を実験的に検討しているものである。例えばこの分野の先駆的研究を行った Walster et al. (1966) では、アメリカの大学生を対象に、学業成績、社会的内向性、外見的魅力等の対人魅力変数が、初対面の異性の印象評定に及ぼす影響を検討

＊1　立正大学心理学部教授

している。学業成績は大学事務局から入手された入学試験成績を用い、社会的内向性はMMPIを用いて事前に測定された。また、実験参加者の外見的魅力は、参加者がパーティへの受付を行なっている際に、4人の評定者によって内密に測定された。これらの対人魅力変数とパーティ終了後に尋ねられたパートナーへの印象評定値の相関関係が検討された。調査の結果、男女ともに、パートナーに対する好印象の度合と高い正の相関を示す変数は、外見的魅力のみであることが明らかにされた。

対人魅力の同定を目的とした研究のもう一つの分類は、対人魅力に影響を及ぼす特徴を質問紙によって探索的に記述するか、あるいはその因子構造を明らかにしようとするものである。この分野の先駆的研究であるAnderson（1968）では、カルフォルニア大学ロサンゼルス校の学生を対象に、性格特性を表す555項目の形容詞について、その項目によって特徴付けられる人物がどの程度好ましいか評定するよう求めている。調査の結果、好ましい人物を表す形容詞として“誠実な”、“正直な”、“知的な”等の項目、好ましくない人物を表す形容詞として“嘘つきな”、“いんちき臭い”、“意地悪な”等の項目がそれぞれ列挙された。我が国においても、松井ら（1983）によって好ましい人物を表す形容詞の調査が行われており、Andersonと同様の結果が得られている。Walster et al. (1966）とAnderson（1968）に代表されるこうした2種類の対人魅力研究の潮流は、長年にわたり膨大な知見を蓄積し、異性関係において重要となる対人魅力の理解に多大な成果を収めてきたと言える（レビューとして、古畑，1990; 奥田，1990; 長田，1990)。

一方で、異性関係における対人魅力に関するこれまでの研究は、大きく二つの視点から批判も可能となっている。第一の批判は、異性関係の対人魅力について、複数の因子間の関わり合いや影響力の相対的度合が把握困難となっているというものである。また第二の批判は、重要視される対人魅力因子について、異性関係の進展に伴う変化の検討が不十分であるとするものである（奥田，1990)。例えばWalster et al. (1966）をはじめとする多くの研究は、外見的魅力が異性関係の対人魅力に重要な役割を果たすことを明白に実証している。しかしその一方で、外見的魅力が、異性関係における他の対人魅力とどのように関わっており、また相対的にどの程度重視されているのかは、今日まで十分明らかにされていない。また、Murstein（1976）やBuss（1999，p.180）が指摘するように、外見的魅力は異性関係の特定の時期（恋愛の初期段階）においてのみ重要となる可能性も残されている。したがって、異性関係における対人魅力の諸因子の相互関係性とその影響力の時系列的変化を捉え、様々な段階における異性関係を円滑に営むための手段を正しく理解するためには、先行研究に関する上述の2点の批判を考慮した新たな検討手法を用いる必要がある。

本研究の目的は、先行研究に関わる上述2点の問題点を改善し、異性関係の対人魅力に関する基礎的知見を提供することにある。具体的には、異性関係の対人魅力における複数因子間の関係を異性関係の場面ごとに検討することを試みる。この目的のために、本研究では、性的関係、恋愛関係、結婚関係、という3種類の異性関係場面を設定し、それぞれの異性関係を構築・維持する上で、重要と考えられる様々な魅力の重要度を、大学生および短大生の被調査者に回答するよう求めた。この3種類の異性関係は、男女がその関係性を構築・維持するために必要なコミットメントの量として置き換えることが可能である。したがって、本研究から得られる調査結果は、異性関係におけるコミットメントの量が増大するにつれて、重要となっていく対人魅力とは何かという視点で解釈することが可能になるであろう。質問項目の選定に当たっては、先行研究を概観し、身体的特徴や社会的地位、性格特性等、対人魅力を構成すると考えられる要素について、可能なかぎり多岐に渡りカバーするよう配慮した。本研究の結果から、異なる異性関係場面において、異性から重要視される対人魅力を理解するための、新しい知見が得られるものと期待される。

方　法

被調査者と調査時期：東京都および千葉県内の大学生および短大生にアンケート調査を実施した。有効回答数は男性54名（平均年齢20.8歳、標準偏差0.8)、女性128名（平均19.7歳、標準偏差1.0）の計182名であった。調査実施期間は、2001年6月であった。

調査方法と調査内容：調査は講義時間を利用した個別自記入形式で行われた。調査開始前に、口頭により、自由意志にもとづく回答であることの同意を得た。回答はいずれも無記名で行われ、質問紙の配布、教示、記入、回収を含めた全実施時間は約20分であった。

付表1．使用されたアンケート用紙

学校名：　　　　性別：男　・女　　　あなたの年齢：（　　　歳）　　　整理番号：

あなたが付き合う異性の相手について、次の各項目はどの程度重要か、以下の基準で数字で回答して下さい。
付き合う相手が、恋愛相手、結婚相手、性的な交渉をもつ相手について、それぞれ区別して答えて下さい。

１．全然重要ではない　２．重要ではない　３.やや重要でない　４．どちらとも言えない　５．やや重要である
６．重要である　７．非常に重要である

		恋愛相手	結婚相手	性的相手
問 1	相手に経済力がある。			
問 2	社会的地位がみこまれる			
問 3	年齢が自分より上である			
問 4	将来への野心がある			
問 5	仕事に勤勉である			
問 6	頼りがいがある			
問 7	経済的に安定している			
問 8	高学歴である			
問 9	対人的に協調性がある			
問10	健康である			
問11	体力がある			
問12	外見的に釣り合っている			
問13	欲しいものを買ってくれる			
問14	自分のと相手が全般的に釣り合っている			
問15	性格が合っている			
問16	価値観が合っている			
問17	育ちが釣り合っている			
問18	知らない人とも、すぐに知り合い、友好的につきあえる			
問19	非常に優しく、思いやりがある			
問20	知識が豊富で、いろいろなことを知っている			
問21	外見的にかわいい			
問22	ハンサム（美しい）である			
問23	がっちりした体型をしている			
問24	身体的魅力がある			
問25	その人は、私に非常に好意をもっている			
問26	子供好きである。			
問27	その人は、私を愛していることを、言葉、しぐさ、行動で示してくれる			
問28	その人は、私がうれしいことがあると、一緒に喜んでくれる			
問29	私の話を真剣に聞いてくれる.			
問30	その人は、私のわがままを聞いてくれる			
問31	その人は、私の好意や努力に感謝の言葉を言ってくれる			
問32	その人は、一緒にいるときは、私の体に触れて、愛情を示してくれる			
問33	セックスの相性が合うこと			
問34	セックスの頻度の好みが合うこと			
問35	相手が他の人と肉体的な浮気をしないこと			
問36	相手が他の人と精神的な浮気をしないこと			
問37	同性の友達と遊びにいくことを束縛しない.			
問38	異性の友達と遊びにいくことを束縛しない。			
問39	自分の職業、習い事などについて、口をはさまない			
問40	経済的なことについて、口をはさまない			
問41	暴力的でないこと			
問42	私の話すことに関心と好意をもって、会話を楽しくしてくれる			
問43	連絡しなければ、心配するような事態について、ちゃんと連絡してくれる			
問44	一緒にいる時間が楽しいこと			
問45	ケンカをいつまでも、引きずらない			
問46	重大な決定などに、決断力、行動力があって、頼りになる			
問47	誕生日や記念日などを忘れない			

以下の考えについてのあなたの意見を次の基準で判断して数字で回答してください。

１．全くそう思わない　２．そう思わない　３．どちらかと言うとそう思わない　４．どちらとも言えない
５．どちらかと言うとそう思う　６．そう思う　７．非常にそう思う

問48	恋愛と結婚とセックスとは、１つのものとして考えなくてはいけない。	
問49	結婚するまでは、セックスすることは、いけないと思う。	
問50	恋愛は結婚を前提としてすべきであると思う。	
問51	恋愛する相手の中から、結婚相手が決まると思う。	
問52	恋愛と結婚とは、別のものであると思う。	
問53	恋愛にセックスは、絶対必要だと思う。	
問54	恋愛にセックスは、あってもいいし、なくてもいい。	
問55	恋愛とセックスは、別ものだと思う。	
問56	セックスは、楽しいからするもので、恋愛や結婚とは、別ものである。	

ご協力ありがとうございました。

Table 1．異性関係において重要となる対人魅力の因子分析（主因子法・バリマックス回転）

項目内容	精神 因子１	実利 因子２	快楽 因子３
Q29 私の話を真剣に聞いてくれる	**0.81**	0.19	−0.03
Q28 その人は、私がうれしいことがあると、一緒に喜んでくれる	**0.81**	0.22	0.02
Q43 連絡しなければ、心配するような事態について、ちゃんと連絡してくれる	**0.77**	0.21	0.01
Q36 相手が他の人と精神的な浮気をしないこと	**0.76**	0.20	−0.10
Q35 相手が他の人と肉体的な浮気をしないこと	**0.74**	0.24	−0.14
Q15 性格が合っている	**0.73**	0.23	−0.09
Q42 私の話すことに関心と好意をもって、会話を楽しくしてくれる	**0.70**	0.17	0.19
Q46 重大な決定などに、決断力、行動力があって、頼りになる	**0.66**	0.45	0.03
Q44 一緒にいる時間が楽しいこと	**0.66**	0.12	0.25
Q31 その人は、私の好意や努力に感謝の言葉を言ってくれる	**0.66**	0.22	0.17
Q25 その人は、私に非常に好意をもっている	**0.65**	0.20	0.08
Q16 価値観が合っている	**0.64**	0.27	−0.14
Q45 ケンカをいつまでも、引きずらない	**0.64**	0.18	0.13
Q27 その人は、私を愛していることを、言葉、しぐさ、行動で示してくれる	**0.62**	0.22	0.20
Q19 非常に優しく、思いやりがある	**0.61**	0.24	0.18
Q37 同性の友達と遊びにいくことを束縛しない.	**0.57**	0.03	0.27
Q47 誕生日や記念日などを忘れない	**0.53**	0.35	0.10
Q26 子供好きである	**0.51**	0.34	0.00
Q09 対人的に協調性がある	**0.51**	0.31	0.05
Q18 知らない人とも、すぐに知り合い、友好的につきあえる	**0.45**	0.30	0.18
Q41 暴力的でないこと	**0.44**	0.20	0.30
Q14 自分のと相手が全般的に釣り合っている	**0.40**	0.36	0.16
Q30 その人は、私のわがままを聞いてくれる	**0.39**	0.27	0.33
Q39 自分の職業、習い事などについて、口をはさまない	**0.35**	0.06	0.31
Q38 異性の友達と遊びにいくことを束縛しない	**0.33**	−0.08	0.24
Q02 社会的地位がみこまれる	0.22	**0.77**	−0.01
Q01 相手に経済力がある	0.24	**0.72**	0.04
Q07 経済的に安定している	0.33	**0.72**	−0.06
Q06 頼りがいがある	0.40	**0.68**	−0.09
Q08 高学歴である	0.15	**0.65**	0.02
Q04 将来への野心がある	0.37	**0.57**	−0.06
Q05 仕事に勤勉である	0.48	**0.55**	−0.25
Q13 欲しいものを買ってくれる	0.03	**0.55**	0.36
Q20 知識が豊富で、いろいろなことを知っている	0.44	**0.48**	0.15
Q03 年齢が自分より上である	0.05	**0.46**	0.07
Q11 体力がある	0.22	**0.42**	0.28
Q17 育ちが釣り合っている	0.31	**0.37**	0.13
Q10 健康である	0.30	**0.35**	0.23
Q12 外見的に釣り合っている	0.15	**0.32**	0.32
Q23 がっちりした体型をしている	0.00	**0.36**	0.27
Q33 セックスの相性が合うこと	0.07	0.05	**0.69**
Q34 セックスの頻度の好みが合うこと	0.17	0.09	**0.62**
Q24 身体的魅力がある	−0.06	0.15	**0.54**
Q22 ハンサム（美しい）である	−0.04	0.04	**0.45**
Q32 その人は、一緒にいるときは、私の体に触れて、愛情を示してくれる	0.33	0.09	**0.41**
Q21 外見的にかわいい	−0.05	−0.11	**0.26**
Q40 経済的なことについて、口をはさまない	0.22	0.00	**0.24**
負荷量の平方和	10.83	6.11	2.97
寄与率	23.04	13.00	6.33

調査内容：本調査の質問紙を、付表１に示す。本調査は、特定の関係性にある異性に求める魅力の重要度を尋ねる項目群（Q1-Q47）と、異性との恋愛、性、結婚の間の関係性に対する態度を尋ねる項目群（Q48-Q56）から構成された。特定の関係性にある異性に求める魅力の重要度を尋ねる項目群については、各項目（例えば、「相手に経済力がある」こと）を、性的相手、恋愛相手、結婚相手のそれぞれの関係性において、どの程度重視するかを、「１．全然重要ではない」から「７．非常に重要である」の７件法で回答するよう、被調査者に求めた。恋愛、性、結婚の間の関係性に対する態度を尋ねる項目群については、各項目（例えば、「恋愛と結婚とセックスとは、１つのものとして考えなくてはいけない。」）について、どの程度賛同できるかを、「１．全くそう思わない」から「７．非常にそう思う」の７件法で回答するよう、被調査者に求めた。

結　果

調査から、性的、恋愛、結婚という三つの異なる異性関係において、対人魅力の重要度を尋ねる47項目（Q1-Q47）に対する有効回答数182名分の回答が得られた。本研究では、異なる異性関係に共通する対人魅力の因子構造が存在するものと仮定し、３種類の異性関係に対する47項目、182名分の３次元構造データを、546（＝182名×関係性３種類）×47項目の２次元超行列として扱い、主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った（Table１)。その結果、固有値の推移と解釈可能性の観点から、３因子を抽出した。３因子の累積寄与率は42.38%であった。

第１因子に負荷量の高い項目は、「私の話を真剣に聞いてくれる」、「相手が他の人と精神的（肉体的）浮気をしないこと」、「価値観が合っている」、「非常に優しく、思いやりがある」等であることから、この因子は異性関係を円満に営むための豊かな精神性を表す因子と解釈された。よってこの因子は“精神的魅力”因子と命名された。第２因子に負荷量の高い項目は、「社会的地位がみこまれる」、「経済的に安定している」、「高学歴である」、「欲しいものを買ってくれる」等であることから、この因子は異性関係を物質的に豊かにする経済性・実利性を表す因子と解釈された。よってこの因子は“実利的魅力”因子と命名された。第３因子に負荷量の高い項目は「セックスの相性が合うこと」、「身体的魅力があること」、「ハンサム（美しい）である」等であることから、この因子は異性に対する性的あるいは身体的魅力を表す因子と解釈された。よってこの因子は“快楽的魅力”因子と命名された。したがって、様々な異性関係に共通する対人魅力の因子構造は、“精神的魅力”、“実利的魅力”、“快楽的魅力”から構成されるものと考えられる。

次に、これら３因子に対する男性または女性の重み付けを明らかにするため、上述の因子分析結果から各被調査者の因子得点を算出した。Fig.１は関係性（性的、恋愛、結婚）と魅力因子（“精神的魅力”、“実利的魅力”、“快楽的魅力”）の関数としての平均因子得点を男女別に示している。

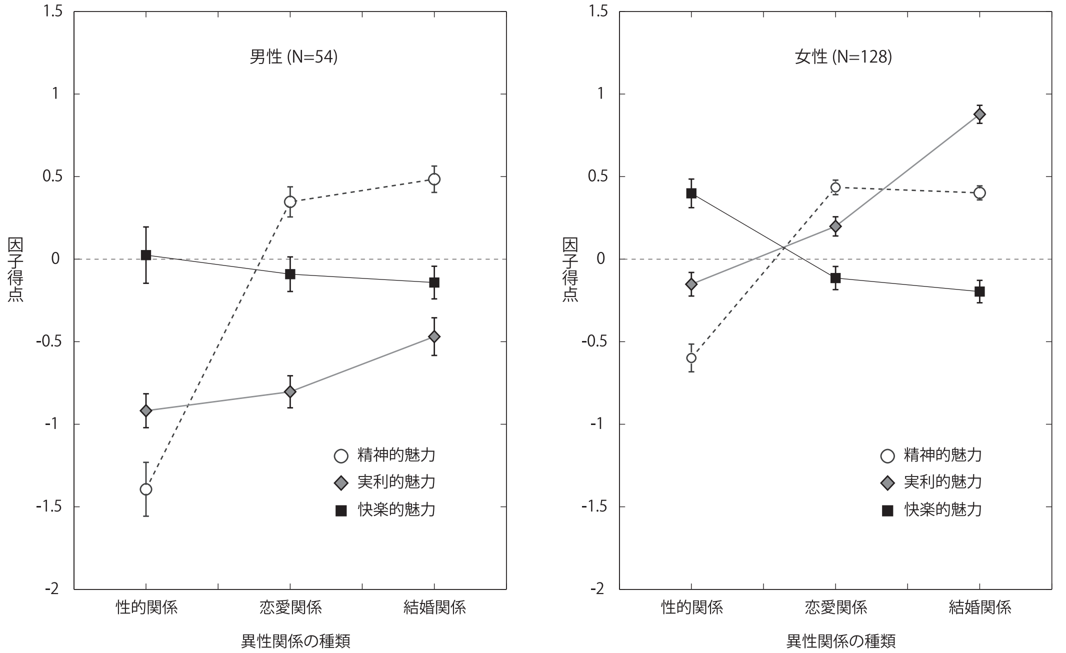

Fig. 1

男性の因子得点について、魅力因子（“精神的魅力”、“実利的魅力”、“快楽的魅力”）と関係性（性的、恋愛、結婚）を要因とする２要因分散分析を行ったところ、有意な魅力因子の主効果（$F(2,106)=14.08$, $p<.01$）と関係性の主効果（$F(2,106)=68.12$, $p<.01$）、および有意な２要因の交互作用が認められた（$F(4,212)=47.60$, $p<.01$）。魅力因子の影響についての単純主効果検定の結果、全ての関係性水準において有意な主効果が認められた（性的、恋愛、結婚の各条件における F 値は24.97, 32.27, 22.85であり、いずれも p 値は１%以下であった）。また関係性の影響についての単純主効果検定の結果、精神的魅力因子条件（$F(2,106)=113.30$, $p<.01$）および実利的魅力条件（$F(2,106)=13.29$, $p<.01$）における単純主効果が認められた。一方で、快楽的魅力因子に対する関係性の単純主効果は認められなかった（$F<1$, n. s.）。このことは、男性の回答者においては、快楽的魅力因子の因子得点のみが、異性関係の関係性による影響を受けていないことを示している。

女性の因子得点についても同様に、魅力因子（“精神的魅力”、“実利的魅力”、“快楽的魅力”）と関係性（性的、恋愛、結婚）を要因とする２要因分散分析を行ったところ、有意な魅力因子の主効果（$F(2,254)=7.42$, $p<.01$）と関係性の主効果（$F(2,254)=103.65$, $p<.01$）、および有意な２要因の交互作用が認められた（$F(4,508)=141.20$, $p<.01$）。魅力因子の影響についての単純主効果検定の結果、全ての関係性水準において有意な主効果が認められた（性的、恋愛、結婚の各条件における F 値はそれぞれ35.89, 24.36, 105.09であり、いずれも p 値は１%以下であった）。また関係性の影響についての単純主効果検定の結果からも、全ての魅力因子水準において有意な主効果が認められた（精神的魅力、実利的魅力、快楽的魅力条件における F 値はそれぞれ151.45, 175.41, 60.20であり、いずれも p 値は１%以下であった）。

異性の魅力の重要度を、男女比較するために、各関係ごとの魅力の重要度を男女比較してみた。Fig. 2 は性的関係における魅力の男女比較である。男女とも相手の外見的魅力や性的相性などの快楽的魅力をもっとも重視している。

Fig. 3 は、恋愛関係での魅力の重要度の男女比較である。男女とも相手の愛情や相性などの精神的魅力を最も重視している。女性は精神的魅力の次に実利的魅力を重視しているが、男性は実利的魅力をほとんど重視していない。快楽的魅力は性的関係より重視されなくなる。

Fig. 4 は、結婚相手の魅力の重要度の男女比較である。

男女で対象的なのは、実利的魅力の評価である。女性は精神的魅力以上に実利的魅力を最も重視しているが、男性は実利的魅力を最も軽視している。男女とも精神的魅力を重視する度合いは同じぐらいである。結婚のような長期的な関係では、物質的な幸福を約束する男性の実利的魅力と精神的な幸福を約束する双方の精神的魅力が重視されるようになる。快楽的魅力はその重要性が下がってくるようである。

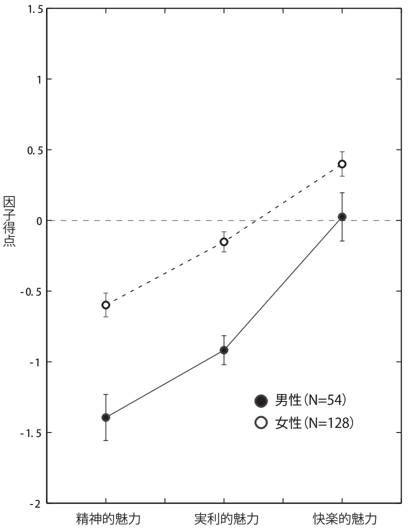

Fig. 2 性的関係における魅力の重要性

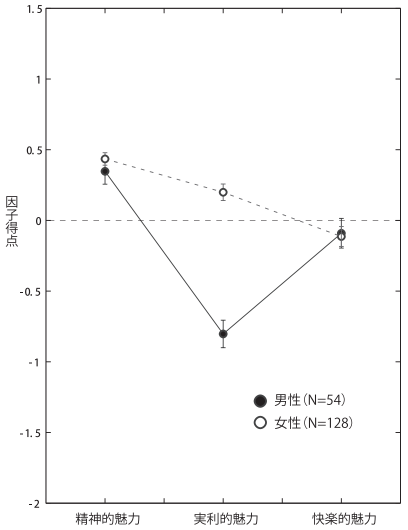

Fig. 3 恋愛における魅力の重要性

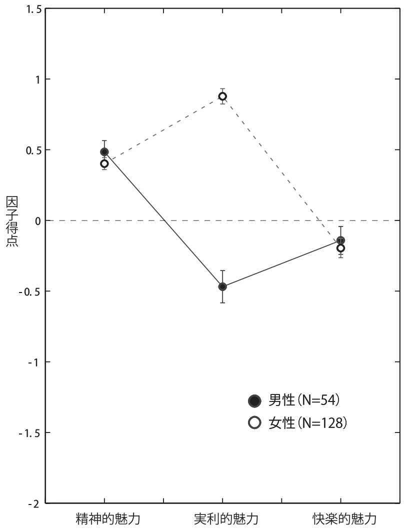

Fig. 4 結婚関係における魅力の重要性

考　察

本研究の目的は、異性関係において重要となる対人魅力の因子構造を記述することであった。従来の異性関係における対人魅力研究では、少数の因子の影響を実験的に検討するか、あるいは、特定の異性関係に限定した検討手法が用いられてきた。このため、対人魅力を構成する因子間の相対的重要度や、異性関係の発展にともなう重要な魅力の変化という問題の理解が十分に行われてこなかった。これに対し、本研究では、性的、恋愛、結婚という三つの異なる関係性において、身体的特徴や性格特性、さらには社会的地位といった様々な次元の魅力因子の重要性を同時に比較可能な調査手法を用い、重要となる対人魅力因子の記述が行われた。

182名の大学生および短大生から得られた回答に対する因子分析の結果、異性関係における対人魅力は有効な関係を維持する精神性を表す精神的魅力、安定した社会的生活能力を表す実利的魅力、および性的あるいは身体的魅力を表す快楽的魅力から構成される可能性が示唆された。

本研究において最も特筆すべき点は、異性関係における対人魅力の３因子を同時に記述したことのみならず、異なる種類の異性関係において、男性または女性が、これらの３因子をそれぞれどの程度重視しているかを考察可能にした点にある。因子分析の結果を基に、男女別にプロットされた因子得点プロフィールは、男女共に、異性関係の関係性の種類によって重視する魅力が異なることを明白に表している。既に述べたように、本研究で設定された３種類の異性関係（性的、恋愛、結婚）の相違は、その関係性の構築と維持において、必要となるコミットメントの量の相違と捉えることが可能である。この点を考慮すれば、男女に共通して見られる傾向としては、異性関係におけるコミットメント量が増加するにつれて、精神的魅力と実利的魅力を重視するようになる性質が挙げられよう。これとは対照的に、快楽的魅力については、コミットメント量の増加と共にその重要性が減少してゆくようである。

因子得点プロフィールから認められる男女の相違点について言えば、最も顕著な傾向は、実利的魅力の相対的重要度が異なっていたという結果であろう。上述のように、この魅力の重要度は、男女ともに、コミットメント量の増加にともなって増大するようであるが、その相対的重要度は、男性が極めて低いのに対し（いずれの関係性場面でも、平均因子得点は０を下回っていた）、女性は結婚関係の構築と維持について、もっとも重要な魅力要素としてみなしていることが認められた。

本研究の結果は、異性関係が性的関係、恋愛関係から結婚関係になるに従って、短期的関係から長期的関係に移行するに従って、相手へのコミットメント量が増大してゆくと、異性関係を維持する魅力の種類の重みづけが変化してゆくことを示唆している。快楽的魅力は短期的な快楽を確保するのに十分かもしれないが、長期な関係では、精神的な魅力が精神的幸福を、実利的魅力が物質的な幸福を確保するのに役立つのであろう。

引用文献

Anderson, N. H. (1968). Likableness ratings of 555 personality-trait words. Journal of Personality and Social Psychology, 9, 272-279.

Buss, D. M., (1999). Evolutionary Psychology: The new science of the mind. Needham Heights, MA: Allyn & Bacon.

Byrne, D., & Nelson, D. (1965). Attraction as a linear function of proportion

Dutton, D. G., & Aron, A. P. (1974). Some evidence for heightened sexual attraction under conditions of high anxiety Journal of Personality and Social Psychology, 30, 510-517.

Driscoll, R., Davis, K. E., & Lipetz, M. E. (1972). Parental interference and romantic love: The Romeo and Juliet effect. Journal of Personality and Social Psychology, 24, 1-10.

渕上克義・楠見幸子（1987）．青年期の恋愛関係に関する研究（II）　Partner 選択の意思決定に関する検討 日本心理学会第51回大会発表論文集、651

藤森立男（1980）．態度の類似性，話題の重要性が対人魅力に及ぼす効果ー魅力次元との関連においてー 実験社会心理学研究，20, 35-42.

Griffitt, W. (1970). Environmental effects on interpersonal affective behavior: Ambient effective temperature and

attraction. Journal of Personality and Social Psychology, 15, 240-244.
Hendrick, S. Hendrick, C., Slapion-Foote, M. J., & Foote, F. H. (1985). Gender differences in sexual attitudes. Journal of Personality and Social Psychology, 48, 1630-1642.
Hendrick, C., & Hendrick, S. (1986). A theory and method of love. Journal of Personality and Social Psychology, 50, 392-402.
金政祐司・谷口淳一・石盛真徳（2001）．恋愛のイメージと好意理由に及ぼす異性関係と性別の影響 対人社会心理学研究
Lee, J. A. (1977). A typology of styles of loving. Personality and Social Psychology Bulletin, 3, 173-182.
Lee, J. A. (1988). Love style. In R. J. Sternberg & M. L. Barnes (Eds), The Psychology of Love. Pp38-67. New Haven, CT: Yale University Press.
松井豊・山本真理子（1985）．異性交際の対象に及ぼす外見的印象と自己評価の影響 社会心理学研究，1, 9-14.
松井豊・江崎修・山本真理子（1983）．魅力を感じる異性像─同性の推測と実際のズレ─日本社会心理学会第24回発表論文集 XXX
Murstein, B, I. (1976). Who will marry whom?: Theories and research in marital choice. NY: Springer.
奥田秀宇（1997）．人をひきつける心 対人魅力の社会心理学 サイエンス社
Rubin, Z. (1970). Measurement of romantic love. Journal of Personality and Social Psychology, 16, 265-273.
Seyfried, B. A., & Hendrick, C. (1973). When do opposites attract? When they are opposite in sex and sex-role attitudes. Journal of Personality and Social Psychology, 25, 15-20.
詫摩武俊（1973）．恋愛と結婚 依田新ほか（編） 現代青年心理学講座５ 現代青年の性意識 金子書房 141-193.
谷口淳一（2010，11月）．恋がうまくいく方法を心理学は教えてくれるのか？ 日本応用心理学会主催公開シンポジウム：なぜ若者は恋をしないのか？─応用心理学からみた恋愛─ 東京
飛田操（1989）．親密な対人関係の崩壊過程に関する研究 福島大学教育学部論集 教育・心理部門，46, 47-55.
飛田操（1991）．青年期の恋愛行動の進展について 福島大学教育学部論集 教育・心理部門，50, 43-53.
Walster, S., Berscheid, E., & Walster, E. (1971). Sexual and heterosexual perception. Journal of Personality and Social Psychology, 20, 93-101.
Walster, E. Aronson, V., Abrahams, D., & Rottmann, L. (1966). Importance of physical attractiveness in dating behavior. Journal of Personality and Social Psychology, 4, 508-516.
Walster, E. Walster, G. W., Piliavin, J. & Schmidt, L. (1973). "Playing hard to get": Understanding an elusive phenomenon. Journal of Personality and Social Psychology, 26, 113-121.